

第23回新生ふくしま復興推進本部会議

○日 時：平成26年6月16日（月）9：40～9：47

○場 所：第一特別委員会室（本庁舎2階）

【内堀副知事】

ただ今から、新生ふくしま復興推進本部会議を開催いたします。

本日の議題「医療関連産業集積プロジェクトについて」、商工労働部長。

【商工労働部長】

医療関連産業集積プロジェクトの現在の状況を説明いたします。関連の補助金について、今年度交付決定という動きがありますので、その辺りを中心に説明したいと思います。

資料1「医療関連産業集積プロジェクトの概要」の右側、アクション・プランをご覧ください。これまで、研究開発、事業化、拠点整備ということで取り組んでまいりました。研究開発については、医療福祉機器等開発ファンド事業を、これまで35件採択しまして、機器の開発を支援してまいりました。今回は11件採択し、新たな機器の開発等について支援をしていきたいと思っております。詳細については、別紙1をご覧ください。

次に、革新的医療機器開発・創出促進事業については、現場の医師のニーズを基に、現場での使い勝手の良さを重要視し、その機器の開発等を支援しているものであり、これまで4件を採択してまいりました。今回新たに1件採択し、合計5件となります。詳細については、別紙2をご覧ください。

そして、事業化については、平成26年度新規事業であり、国からもご支援をいただいております。医療福祉機器の実証・事業化支援事業において、これまでいろいろな研究開発を支援してまいりましたが、研究開発に一定の目処が立ち、事業化出来るものがだんだん出てきておりますので、そのための施設整備等に対して、補助をするものでございます。今回12件の申請がありましたが、7件を採択することといたしました。

別紙3をご覧ください。本県に初めて工場を設置していただく案件は、CYBERDYNE（サイバーダイン）株式会社の「医療用ロボットスーツHAL」を中心とした製品開発、製品生産等でございます。もう一つは、東京都大田区に本社があります、イービーエム株式会社の「オフポンプ冠動脈バイパス手術トレーニング大規模迅速評価システム」でございます。これは、資料の図にありますように、トレーニングの製品を作ることとございます。さらに、株式会社ニチオンの「内視鏡下用パワーアシスト鉗子」は、従来の鉗子は持ち手の部

分がハサミのような形のものでしたが、それをピストル型に変えることで医師の負担を軽減できるというものでございます。これらの企業の工場が、福島に新たに建設されるということでございます。別紙3の2枚目は、既に県内で事業を行う企業のうち、工場の増設等を行う企業でございます。これら7件を採択しまして、本県の医療関連産業の一層の集積を図ってまいりたいと思っております。以上でございます。

【内堀副知事】

それでは、この件について知事、お願いいたします。

【知事】

医療関連産業は、震災前から本県の未来を担う産業として、官民が一体となって進めてきた分野である。今、報告にあったように、補助金や企業への様々な支援、また医療機器開発・安全性評価センターの建設などもあるので、様々な取組を進めることで、先端の医療機器産業の集積地にしたいと考えている。商工労働部を中心に、それぞれの部局が連携して、間違いなくこれが福島県の未来産業になるように進めてほしい。以上。

【内堀副知事】

では、続いて報告事項に入ります。

「財務事務の適正化について」、総務部長。

【総務部長】

資料2をご覧ください。財務事務の適正化について、重点事業及び重点事業以外の主要事業の第4四半期までの執行状況の確認を行っております。

重点プロジェクト等の進捗状況につきましては、平均で90%を超える執行率となっており、概ね適切に事務を執行出来たものと考えております。なお、前年度からの繰り越し等の不用残が発生した関係上、100%になっていないということはご了承いただきたいと思っております。その他のプロジェクトについても、平均して90%を超えた進捗率となっており、各部局において、予定通り事業が進んだものと考えております。

平成26年度につきましても、引き続き、各部局における自己点検の徹底を図るとともに、出納局と一層連携を図りながら、財務事務の適正化に努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

【内堀副知事】

それでは、以上で復興推進本部会議を閉じます。